

岩手山

概況

火山活動は穏やかに経過しました。

- ・岩手山の山体の火山性地震は、少ない状況が続いています。
- ・火山性微動は観測されませんでした。
- ・黒倉山山頂の噴気は、高さ 30m 以下で変化はありませんでした。
- ・現地観測では、噴気地熱地帯などに変化はなく静穏な状況が続いています。

地震活動の状況

火山性地震は 46 回観測されました（5 月 36 回）が、岩手山の山体の地震回数は少ない状況が続いています。

- ・東岩手山（山頂付近）
浅い所を震源とする高周波地震はありませんでした。
山頂東側の海面下 10km 前後が震源と推測される低周波地震は 1 回観測されましたが、少ない状況が続いています。
- ・西岩手山（大地獄火口～姥倉山）
火山性地震は少ない状況が続いています。
- ・岩手山西側
1998 年に岩手山の火山活動が活発化する以前から地震活動のある滝ノ上付近では、引き続き発生しています。
- ・火山性微動はありませんでした。
- ・岩手山山頂直下の浅い所の地震活動と関連があると考えられるモホ面付近（深さ 30km 前後）の低周波地震は、12 回（5 月 2 回）観測されましたが、岩手山の山体の火山性地震は少ない状況が続いています。

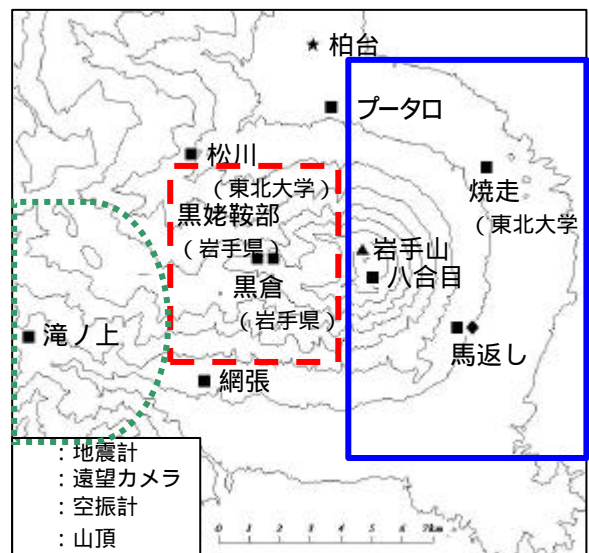
噴気活動等の状況

遠望観測（監視カメラ）では、黒倉山山頂の噴気の高さは 30m 以下で変化はありませんでした。

現地観測の状況

岩手県防災ヘリ協力により、6 月 9 日に山頂部、15 日に大地獄谷、黒倉山の現地観測を実施しました。赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布、及びサーミスタ温度計²⁾による噴気、地中温度の観測を行いました。その結果、噴気地熱地帯の状況に変化はなく、引き続き静穏な状況であることが確認されました。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
- 2) サーミスタ温度計は、センサーを直接熱源に当てて温度を測定する機器である。



岩手山火山観測点配置図

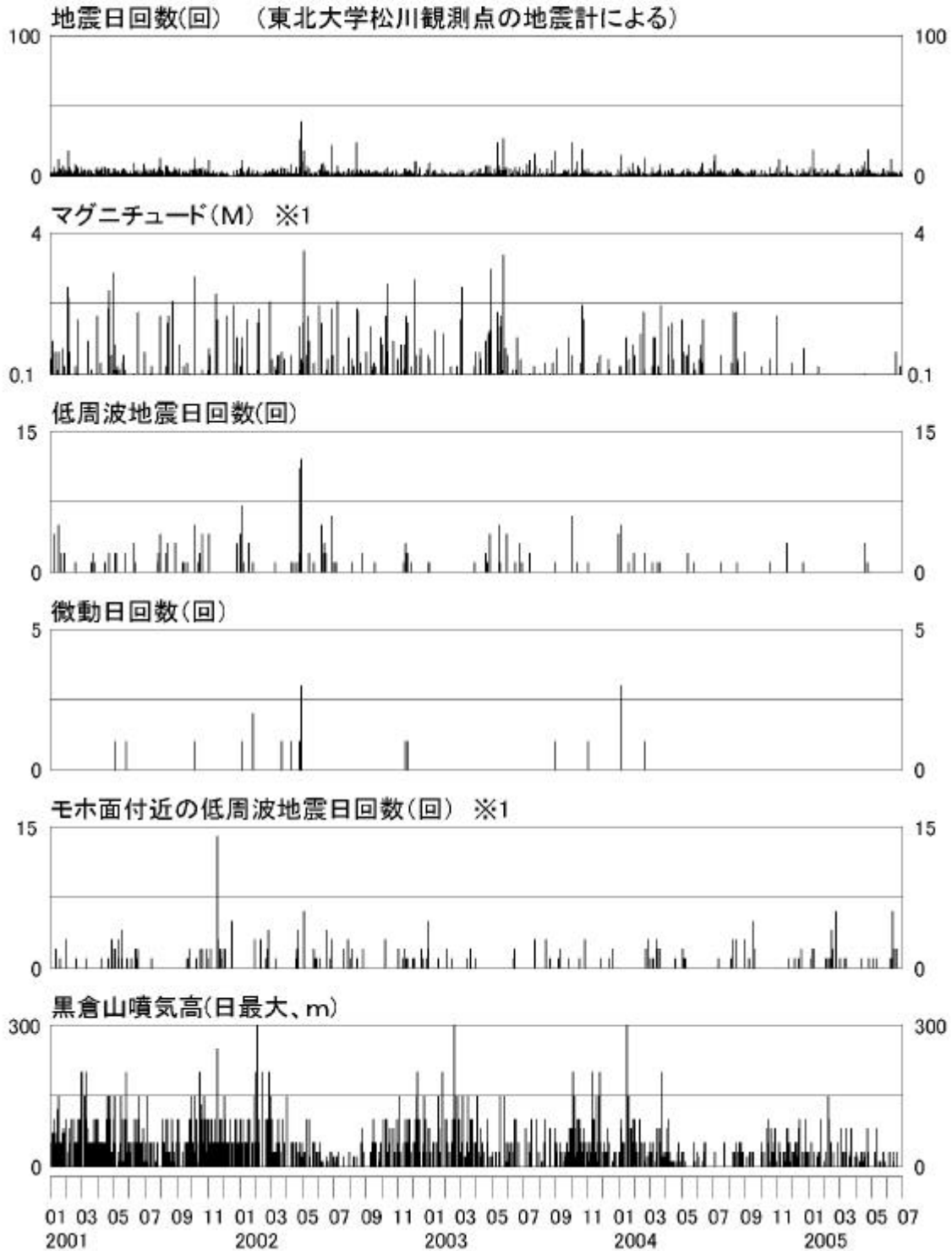
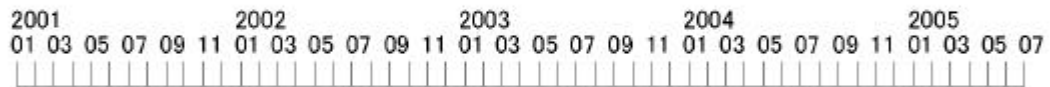
東岩手山（岩手山東側～山頂、鬼ヶ城付近）

西岩手山（大地獄谷～黒倉・姥倉・犬倉山）

岩手山西側（小松倉～三ツ石山、滝ノ上付近）

岩手山 活動一覧

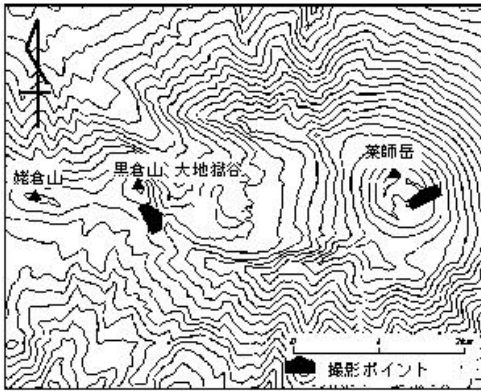
2001/01/01～2005/06/30



1 弘前大学、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所、及び気象庁のデータを基に作成しています。

岩手山火山現地観測報告

岩手県防災ヘリ協力により、6月9日に山頂部、15日に大地獄谷、黒倉山の現地観測を実施しました。赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布、及びサーミスタ温度計²⁾による噴気、地中温度の観測を行いました。その結果、噴気地熱地帯の状況に変化はなく、引き続き静穏な状況であることが確認されました。

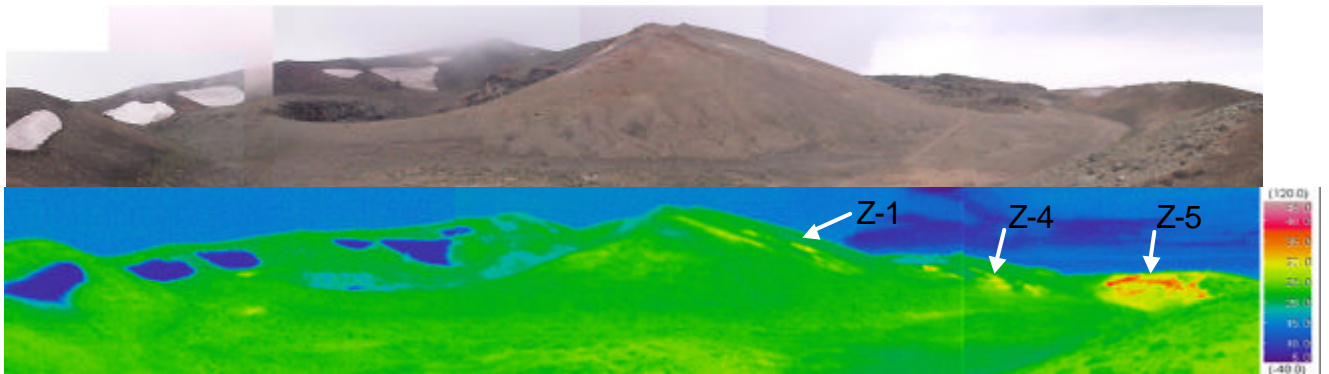


赤外熱映像観測点図

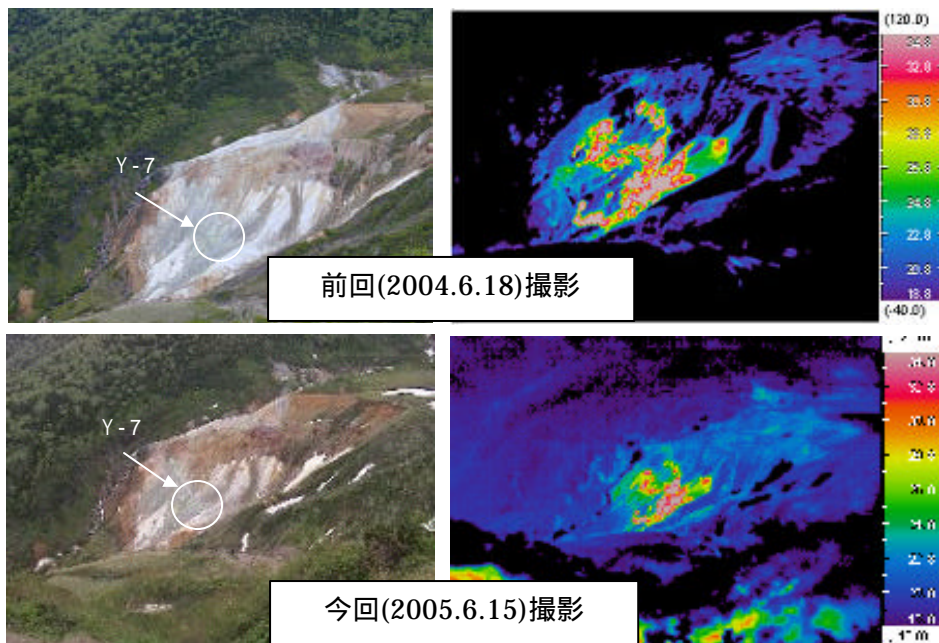
	Z-1 (妙高岳南東斜面)		Z-4 (奥宮)	
	天気・気温	噴気温度	天気・気温	噴気温度
今回	曇・14	94	曇・14	78
前回(昨年6月)	晴・15	95	晴・15	54

	Z-5 (外輪山内壁)		Y-7 (大地獄谷主噴気)	
	天気・気温	噴気温度	天気・気温	噴気温度
今回	曇・11	89	曇・14	96
前回(昨年6月)	晴・18	86	曇・19	97

各観測点の噴気温度



岩手山山頂部の可視画像（上）と赤外熱映像画像（下）



大地獄谷の可視画像（左）と赤外熱映像画像（右）

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

2) サーミスタ温度計は、センサーを直接熱源に当てて温度を測定する機器である。